

2021年度第3四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

- Q1**：印刷用紙と段ボール原紙の値上げは、現在どのような状況になっているのか。可能な範囲で構わないので教えてほしい。
- A1**：印刷用紙は、お客さまとのコミュニケーションは、かなりきめ細かく取らせていただいている、一定のご理解をいただけているという手応えも感じている。段原紙は、段ボール製品の価格動向をよくにらみながら交渉を続けている段階です。
石炭だけではなく、諸資材が全般的に上がってきていることは、一定程度ご理解いただけていると思う。
- Q2**：生活関連事業が当初の計画よりもずれていると思う。先ほどの説明で、Opal に関してはボリュームの回復や、輸出単価がちょっと変わってきていると話があったと思うが、今後、計画とずれていたところがどう改善してくるのか。来期にかけて、生活関連事業がもう少し戻ってくる可能性についても教えてほしい。
- A2**：Opal の足元の状況については、コロナには引き続き苦労をさせられているが、昨年と比べると、国内の需要をはじめ、全般に戻りつつあるという手応えは感じている。シナジー効果は予定通りしっかりと出てきているので、決して悪い状況ではない。昨年の第4四半期がすごく悪かったので、現在の進捗としてはこのように見えてしまうが、決して予定から大きくずれているわけではない。リスクを挙げるとすれば、海上輸送のところ。Opal だけではなく、NDP なども実は苦労している。
- Q3**：第3四半期までの進捗を見ると、第4四半期に当期純損失が10億円以上出てくる感じになると思うが、第4四半期に何か見込んでいる損失があるのか。背景について教えてほしい。
- A3**：特別損失として、釧路の撤退損が10億円強出てくるという見立て。また、地震の影響による災害損失もまだ出てくる。これらが特損として出てくる見込みもあり、当期純利益については据え置いている。
- Q4**：2019年に取り組まれた前回の値上げはスムーズに通ったと思うが、今回は前回と比べると値上げの交渉の進捗はスムーズなのか、それとも少し時間がかかっている印象なのか。
- A4**：今回の値上げでは、将来に向けてのGHG削減に向けたコストについても理由の一つに挙げているので、お客さまのご理解を得るためのコミュニケーションに丁寧に時間をかけているのは間違いない。ただ、決してご理解いただけていないということではないと思っている。

- Q5**：古紙価格を注目している。2Q から 3Q にかけて古紙の減益影響が、拡大していると思うが、国内の古紙の調達価格は少し上がってきているという認識を持っているのか。
- A5**：古紙の発生が全般的に低調なので、輸出の価格が少し上がったのは確かで、それが国内市況に多少影響してきているのはあると思う。ただ、足元は輸出の市況がかなり落ち着いてきているし、サプライヤーの皆さんとよく話し合って交渉して数量も価格も決めている。注意は必要な状況が続いていると理解しているが、その影響を最小限に抑制できていると思う。
- Q6**：印刷用紙は、今年の需要水準も見えてきたと思うが、それに対して、生産体制を追加で見直しする余地はあるのか。
- A6**：足元の需要動向は、昨年に対しては良くなっている部分もあるが、コロナ前と比べると落ち込んだ状態が続いていて、この先も減少は続いていくと見ている。それを織り込んだ施策を打ち出さないといけないと思っている。
今年5月に石巻工場 N6 マシンを止めると、需給のバランスはしばらく大丈夫だと思っている。止めることもしっかり考えないといけないが、もう一つ大事なことは、成長事業あるいは新しい事業を広げていこうとしているので、今持っているインフラを、次の事業に最大限活用していくこと。持っているものを無駄にしないようにしながら、事業構造を変えていく。
- Q7**：エネルギー事業の第3四半期の営業利益が減少しているが、これはコストの上昇に対してコストアップの転嫁にタイムラグが出たなどの要因があったのか。
- A7**：石炭の価格が先に上がって、価格転嫁は後で出てくる。第3四半期は、その部分の差が特に顕著になった。
- Q8**：チップのコストも上がっていると思うが、これは円安の影響なのか、それとも為替の影響を除いても上昇基調なのか。
- A8**：チップは、今後、中国中心に需要が高まってくるだろうと思う。今年、ドル建ての FOB 価格は上昇しているが、それはすでに織り込んでいる。来年度以降もよく見ていかなければいけないと思っている。
- Q9**：第3四半期の実績について計画対比での進捗をどのように評価されているか教えてほしい。
- A9**：第3四半期終了時点で大きな乖離が出ているところはない。全て計画どおりと見ている。第4四半期については、海外の物流の混乱などが少し懸念事項と見ているが、全体的には計画の範囲内と見ている。
- Q10**：操業安定化は計画通りに進んでいるのか。また、Opal のシナジー効果は、第3四半期でどのくらい発現したのか。

A10：原価改善は、3Q累計で23億円。年間で35億円出ると公表しているが、このとおりに進捗している。原価改善については想定どおりと見ている。

Opalのシナジーは、2021年に18ミリオン豪ドル、2022年に25ミリオン豪ドル出すというのが当初の計画。2021年は予定どおりきている。

Q11：古紙の価格は、古紙そのものの値段が上がっているのか、それとも物流費とかのコストが上がっているのか。もう少し詳しく教えてほしい。

A11：一番大きく影響を受けるのは店頭価格。ただ、物流費の値上がりも確かにある。

以 上